

日に2回以上に分割して院内で摂取するものを「単日複数回」、1回だけ院内で摂取されて症状の有無を判定するものを「単日単回」と定義した。

全回答者のうち、負荷試験を実施している者は65.6%であったが、平成17年度に「単日複数回」を実施した者は47.8%、中でも年間10件以上実施した者は28.8%に留まった。「単日単回」は28.4% (10回以上は14.4%) が実施していた。(図1)

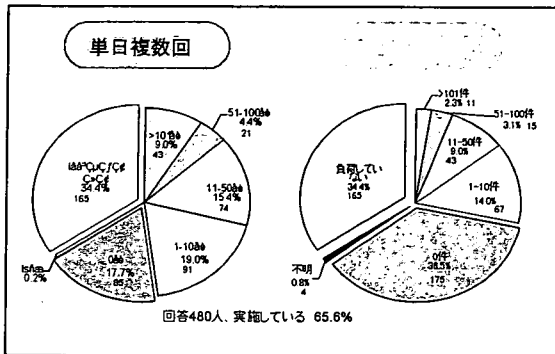


図1. 平成17年度の負荷試験実施数

単日複数回の負荷試験を行っている233名中、主として入院で行っている者は30.9%であり、一方29.2%は診療所の医師であった。

負荷食品は、鶏卵、牛乳、小麦、大豆の順に多く、それぞれ75%以上がゆで卵、牛乳、麺類、豆腐を負荷食品として用いたオープン法であった(図2)。

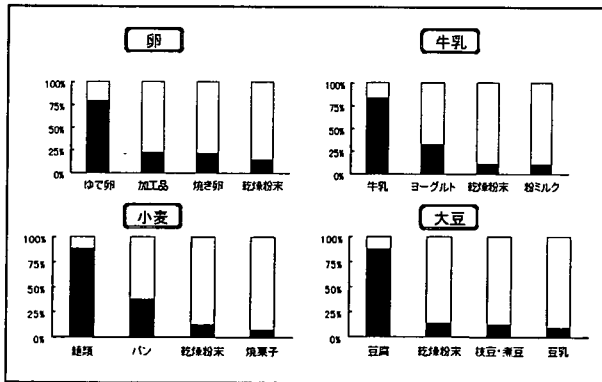


図2. 負荷試験に使用した食品

分割摂取の投与間隔は94.7%が30分以内であり、最終摂取後症状の出現を確認するための院内待機時間は1時間未満が27.0%、1-3時間が47.0%であった。

過去1年間で、強い誘発症状のためにアドレナリン注射を行った経験がある者は28.0%、ステロイドの点滴を施行した経験がある者は43.5%であった(図3)。

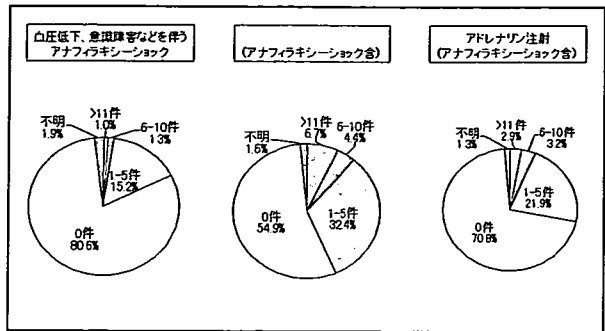


図3. 最近1年間の負荷試験で経験した症状と処置の件数

全回答者の中で、食物負荷試験を今後さらに行う意志のある者は37.8%であり、ニーズに十分対応できていないが現状以上には難しいという者が31.5%であった。

負荷試験をより積極的に施行するために必要な事として、「外来でのプロトコルやクリニカルパス」「保険制度の整備」などが多かった(図4)。

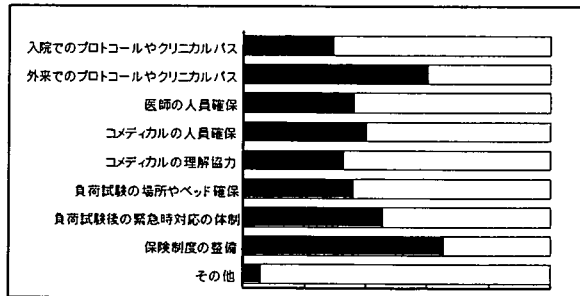


図4. 負荷試験をより積極的に行うために必要なこと

【ゴマアレルギー】

ゴマ特異的IgE抗体価(CAP-PEIA)クラス別に、ゴマの摂取状況とアレルギー症状発現率を図5に示す。

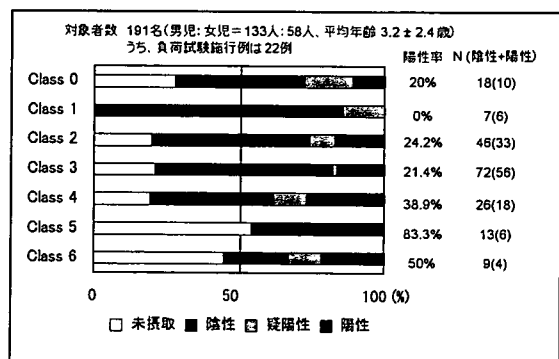


図5. ゴマ特異的IgE抗体価と臨床症状

クラス0-2については、ゴマ摂取に伴う症状の有無に関するカルテ記載がない者が多くて検討から除外されているために、正確な陽性率の算出がされていないが、抗体陰性(クラス0)でも2例にアレルギー症状が認められた。クラス4, 5, 6でも、アレルギー症状陽性率はそれぞれ38.9%, 83.3%, 50.0%に留まった。

ゴマアレルギー36名で認められた症状は、皮膚症状が94.4%であり、消化器・呼吸器・粘膜症状はいずれも10%以下であった。負荷試験陽性であった7例(ごま油負荷試験の1例を除く)では、ゴマ特異的IgE抗体価は、症状を誘発した負荷量に強い逆相関を示した。

D. 考察, E. 結論

【負荷試験調査】

アレルギー学会専門医(小児科)の中でも食物負荷試験を実施している医師は約半数に留まり、実際に行っている件数は食物アレルギー患者の潜在的な需要にはるかに及ばない件数であると思われた。その中でも、診療所勤務(開業)の専門医が、単日複数回の負荷試験を実施している割合は高く、外来や診療所で実施可能な負荷試験のプロトコルや保険制度の整備を求める意見が多く集められた。

入院で行う「単日複数回」負荷試験における負荷食品や摂取間隔などのプロトコルは、一定の幅はあるものの比較的統一された方法で実施されていると思われた。

今後は、多施設で実施された結果なども含めて、負荷試験の有効性と安全性の評価を積み重ね、我が国における標準的な負荷試験の方法の確立に向けた研究が必要である。

アレルギー専門医の間でも食物負荷試験の実施率は低く、より普及するためにはプロトコルや保険制度の整備が求められている。

【ゴマアレルギー】

CAP法によるゴマ特異的IgE抗体は、ゴマアレルギーの重症度をある程度反映するが、診断特異性が不十分であった。この欠点を補うためには、リコンビナントアレルゲンを用いた抗体測定など、新たな検査法の開発を検討する必要がある。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 伊藤浩明、二村昌樹、高岡有理、後藤志歩、森下雅史、中西久美子、坂本龍雄：当科におけるオープン法による牛乳・鶏卵・小麦負荷試験。(投稿中)

2. 学会発表

- 1) 二村昌樹：食物負荷試験の実施状況についてのアンケート調査報告. 第44回日本小児アレルギー学会. 2007年12月、名古屋
- 2) 高岡有理、二村昌樹、伊藤浩明、坂本龍雄：日帰り食物負荷入院1年のまとめ. 第19回日本アレルギー学会春季臨床大会. 2007年6月、横浜
- 3) 後藤志歩、高岡有理、二村昌樹、森下雅史、伊藤浩明、坂本龍雄：ゴマアレルギーにおけるゴマ特異IgE抗体価の位置づけ. 第52回東海小児アレルギー談話会. 2007.10、名古屋
- 4) S. Goto, Y. Takaoka, M. Futamura, M. Morishita, T. Sakamoto, K. Ito: Characteristics of Sesame Seed Allergy and Sesame-Specific IgE test. AAAAI, 2008.3, Philadelphia.

H. 知的財産権の出願・登録状況

特になし